

医学部卒後5年目までの会費無料化は、確かに一定の効果を上げた施策でした。しかし、多くの若手医師からは今もなお、「医師会っていったい何をしているの?」「政治的な団体なのでは?」といった声を耳にします。これは、決して少数意見ではなく、多くの先生方が抱えている率直な疑問ではないでしょうか。「医師会に入る意味はあるのだろうか?」——その問いにどう応えていくのか。日本医師会からは「入会のメリットをもっと伝えてほしい」と言われますが、“何を、誰に、どのように伝えるのか”という点が実は最も難しいのです。

その中で、私は沖縄県医師会が他県と比べても非常に先進的であり、医療界の“仲間づくりモデル”として全国をリードしていると自負しています。昨年発足した沖縄県医師会若手チーム「Team F-Vision」は、まさにその象徴です。若手世代の意見を積極的に施策に反映し、若手同士が気軽に交流できるプラットフォームを整備しました。

さらに今後は、琉球大学医学部の学生を対象とした「学生会員」の発足に向けて準備を進めています。学生のうちから医師会活動を身近に感じ、社会と医療の接点を知っていただくことが狙いです。実際に、琉球大学では「医師会の社会における役割」と題して講義をさせていただいていますが、ここで痛感するのは“伝え方”の重要性です。「医師会とは三層構造で…」といった説明だけでは学生の心に響きません。聞く人の心を動かすには、情熱と熱量を込め、未来へのビジョンを語るからこそが大切です。——この部分は、私の得意分野でございます😊。

また、最近特に感じるのは、“診療報酬改定”ばかりを前面に打ち出してしまうと、どうしても医師会活動が国民の皆様へ冷たい印象を与えてしまうということです。これからの医師会に求められるのは、国民・県民の皆様へ寄り添い、信頼され、そして「医師会って頼もしい」と感じていただけるような姿です。そのためには、心に響く発信が必要不可欠です。

沖縄県医師会では、業界の垣根を越えた連携を積極的に進めています。最近では、沖縄を代表するお笑いグループFECの皆様と協力し、県民により近い形での情報発信を始めています。こうした新しい取り組みが、“県民に愛される医師会”の第一歩になると信じています。そしてその先にあるのが、真の意味での“組織力強化”です。すなわち、「沖縄県医師会に入って、一緒に活動してみたい!」——そう思ってもらえる仲間を増やすことです。

青天井の発想力と、青天井の行動力。この二つを武器に、私たちはこれからも仲間の輪をどんどん広げていきたいと思えます。今回の本会議に参加して、ふと思い描いたわたくしの印象記です。

お 知 ら せ

講演会・例会のご案内



講演会・例会の開催については、沖縄県医師会ホームページ(左記QRコード)をご参照下さい。

※随時更新を行っております。